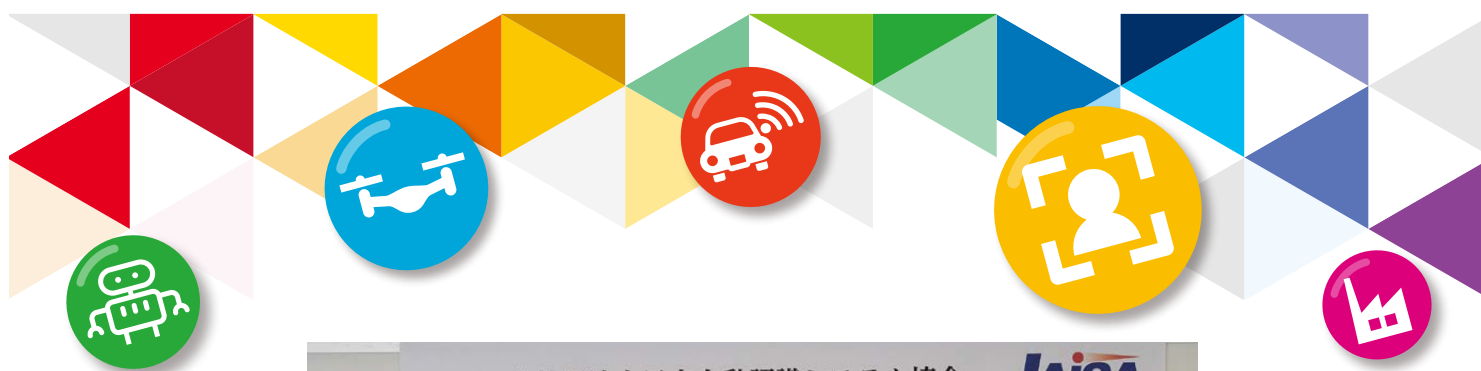




2023年新春賀詞交歓会を開催

2023年1月12日、オンライン形式で新春賀詞交歓会を開催いたしました。
JAISAは本年も自動認識普及発展のため「会員サービスの向上」と「ウィズコロナ時代の
堅実な事業経営」を柱に、会員様とともに社会経済の発展に貢献すべく活動してまいります。



会報JAISA冬号 CONTENTS

2023年 新年のご挨拶 P1

2023年 新春賀詞交歓会 P2

研究開発センター 活動報告 P3

バーコード部会 P4

RFID 部会 P5~6

バイオメトリクス部会 P7~8

システム部会 P9

医療自動認識プロジェクト P10

画像認識プロジェクト P11

第20回 自動認識総合展 大阪 ご案内 P12

2023年 新年のご挨拶



一般社団法人日本自動認識システム協会
代表理事会長
小瀧 龍太郎

新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、平素より当協会の事業活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、日本経済は先行き不透明な状況が続き、明るいニュースに触れる機会が少なくなりました。昨年は、急激な円安、不安定な世界情勢などが重なり、需給バランスが崩れた状態が続いています。新型コロナウイルスの感染拡大が経済に与える影響は低下していると言われますが、個人消費は物価高の影響もあり景気の回復を実感するに至ってはおりません。

このような経済的、環境的要因がある中、企業の業績が二極化する構図にあります。自動認識業界においては、非接触・自動化の製品やサービスはコロナ禍で需要が拡大しました。画像認識による検温・マスク着用促進はじめ、セルフレジ、スマート決済など従来の対面サービスに代わる新たな機器やシステム・サービスは日常生活で経験されていることです。

新たな生活様式ではコミュニケーションの手段・方法が従来と異なり、電子データと通信チャネルを有効活用することでコミュニケーションのスピードと範囲を格段に上げ、デジタル社会の実現を加速させています。今やヒト・モノ、生活環境に存在する多くの事象が電子データ化され、さまざまなシステムに組み込まれてその情報範囲も日々拡大しています。今後の発展に不可欠なことは、デジタル産業基盤の強化、デジタルインフラの環境整備とともに、データ収集に欠かせないインフラ技術である自動認識技術とそれを担う人材を育成することです。

当協会は、かねてからデジタル人材育成のため、各種セミナーと自動認識技術者資格認定講習・試験を実施しております。本年も、人材育成をはじめ自動認識市場の拡大と活性化に向け、展示会の開催、研究開発センターの活動をさらに充実させて、会員企業の皆様とともに総合的な自動認識技術の活用促進をより広範囲に進めてまいります。また、業界関連団体や関連省庁との連携をはかり、経済の発展に貢献してまいります。

2023年が皆様に実り多き年でありますよう、そして皆様のご発展を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。



2023年 新春賀詞交歓会

賀詞交歓会をオンラインで開催

2023年1月12日午後4時から、JAISA（東京都千代田区）に協会役員・理事が参集し、会員企業、来賓の皆様とオンラインで賀詞交歓会を開催、約120名にご参加いただきました。

デジタル人材の育成が重要

賀詞交歓会の開催にあたり、JAISA小瀧会長は、「昨年来需給バランスが崩れた不安定な状況が続き、企業の業績が二極化する構図が見て取れるなか、自動認識業界は非接触や自動化（省人化）、安全・安心に関わる製品やサービスの需要が拡大している」とし、「コミュニケーションの手段と方法が従来と異なる新たな生活様式に自動認識技術が貢献し、デジタル社会の実現を加速させている」。さらに今後、「デジタル産業基盤の強化、とともに、自動認識とそれを担う人材の育成が需要」であることを強調しました。最後に、「会員企業の皆様とともに自動認識技術の活用促進を広範囲に進め、業界関連団体や関係省庁との連携を図り、経済の発展に貢献する」と新年の挨拶を述べました。

2022年ご入会会員

2022年にご入会いただいた新会員様からは、映像によるご挨拶など、5社の会員様が紹介されました。

株式会社朝日ラバー 様
インテル株式会社 様
株式会社野村総合研究所 様
The Qt Company Oy 様
SGシステム株式会社 様

最近の政策動向について 経済産業省 講演

<講演 目次>

1. GX実現に向けた基本方針の概要
2. 2022年度補正予算・省エネ対策パッケージ
3. 2022年度補正予算・中小企業関連
4. 特定技能外国人材について
5. パートナリショップ構築宣言の状況
6. 三陸・常磐ものの消費拡大のための取組



経済産業省 製造産業局
産業機械課 課長
安田 篤 様

主賓の経済産業省製造産業局産業機械課課長 安田篤様は、GX実現に向けた基本方針の概要として、今後10年を見据えたロードマップで全体像を紹介した後、資源循環産業、次世代ネットワーク（系統・調整力）、運輸分野、インフラ分野、食料・農林水産業、地域・暮らし、ほか22分野の事例で進行計画を解説。次に、2022年度補正予算の「省エネ対策パッケージ」と「中小企業関連」の政策に続き、「特定技能」を持つ外国人労働者の受入れと、サプライチェーン全体の付加価値向上及び大企業と

中小企業の共存共栄を目指す「パートナーシップ構築宣言」の状況、最後に三陸・常磐ものの消費拡大に向けた取組について、ご講演をいただきました。

新春講演 2023年の日本経済経済

<講演 概要>

1. アフターコロナ元年到来
2. グローバルエコノミーに試練
～三つに分断される世界
3. 世界はインフレ後の景気後退懸念
～商品市場が示唆する正解経済の
後退懸念
4. 2023年の日本経済
～日本の物価はまだ上がる
～景気は下向きの力が強まる
5. デフレとの20年戦争が終わる
～金融市場の正常化で金利は上昇
～大事なことは2%の物価上昇でなく競争力強化
6. 経済成長の源泉は競争力
～円安は日本の競争力低下を示唆
～安全保障が経済に優先する時代の成長戦略



三菱UFJリサーチ&
コンサルティング(株)
調査部 研究主幹
鈴木 明彦 様

本年は新たな企画として、新春講演を三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 鈴木明彦様にお願ひしました。「2023年の日本経済」と題して、2020年のコロナショック直撃によりワクチンや医療体制が整わず経済活動停止に追い込まれた国内の状況から、21年・22年の国際状況（三つに分断される世界）や景気の動向、そして経済成長のキーポイントなど、解説していただきました。

2023年 JAISAの活動

賀詞交歓会第一部の最後に、JAISA塩川副会長は、2023年の事業活動について紹介、特に自動認識普及発展のため「会員サービスの向上」と「ウィズコロナ時代の堅実な事業経営」を柱に、オンライン併用による地域に依存しないサービスの提供、自動認識技術による新生活様式の具現化と提言を行う、ほか本年のJAISA活動計画を具体的に紹介しました。

第2部では対面による親交ができないため、オンライン談話室を設け、年始めのご挨拶やコロナ禍で疎遠になった方々同士旧交を温めていただきました。

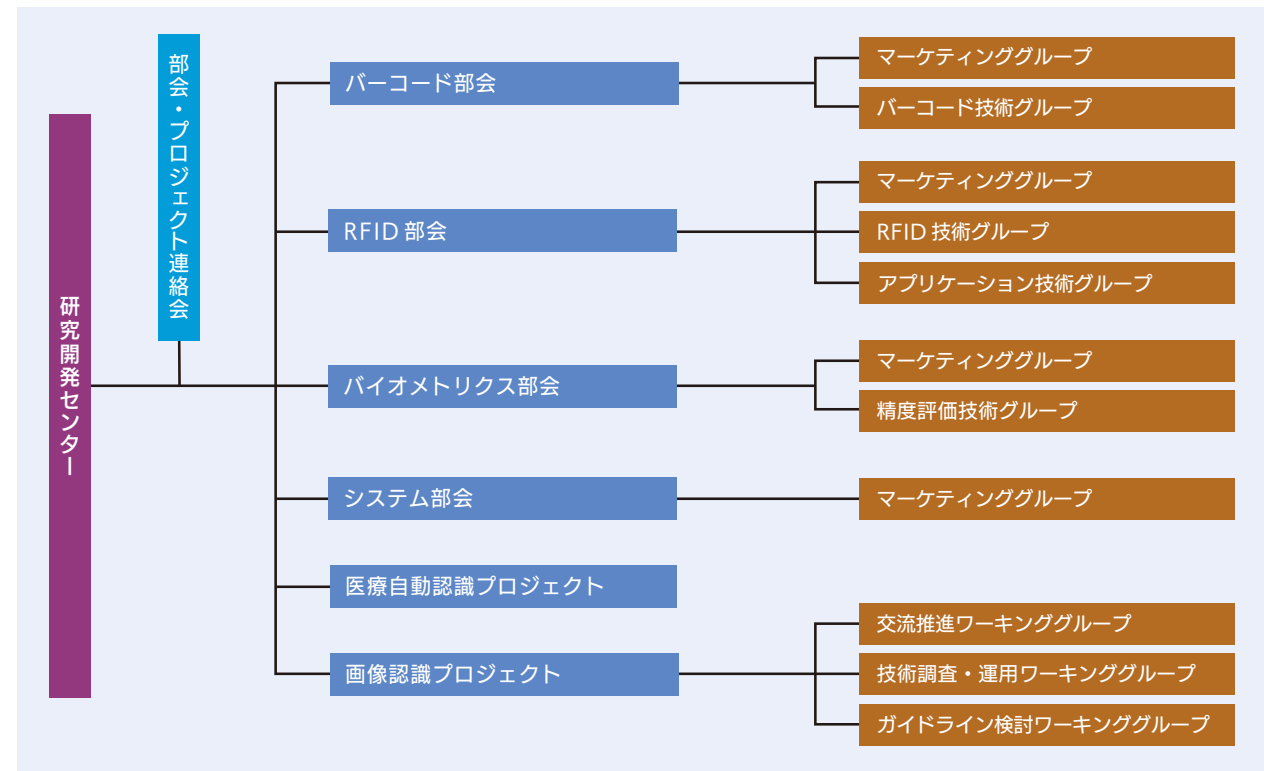
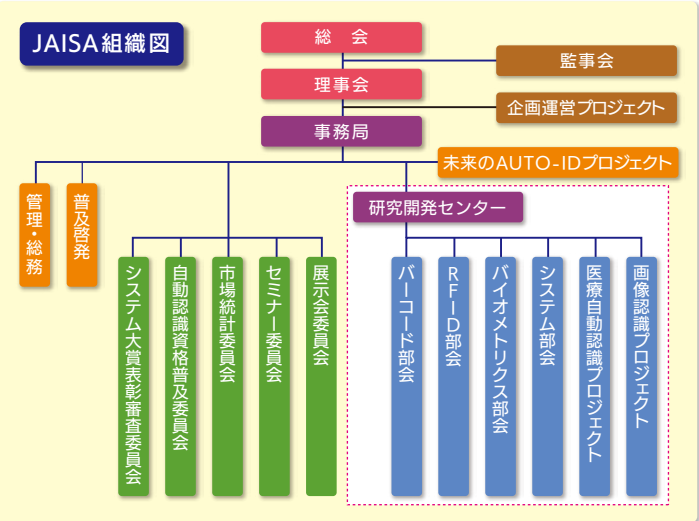
JAISA
代表理事副会長
塩川 恵一



研究開発センターの活動

JAISAの研究開発センターでは、自動認識市場の拡大に貢献することを基本活動方針として、4つの部会（バーコード、RFID、バイオメトリクス、システム）及び、2つのプロジェクト（医療自動認識、画像認識）を組織して、会員企業の皆様とともに活動しています。

部会・プロジェクトでは、自動認識市場、会員の事業に役立つ付加価値を提供するため、仲間作りの場の提供や技術・専門分野の深耕と情報共有、標準化活動の他、各々の活動目的に応じたワーキンググループで活動しています。



昨年12月、2022年度第2回部会・プロジェクト連絡会が行われ、今年度上期の部会・プロジェクトの活動が報告されました。本誌では、その概要を紹介いたします。

2022年度研究開発センターの活動方針

1. 自動認識の普及発展のための「会員サービス向上」
2. ウィズコロナ時代の堅実な事業運営

1) 会員サービス向上のための部会・プロジェクト活動計画の策定と実施

- ・参加会員企業のご要望・課題の把握。
- ・会員サービス向上を念頭に、活動計画を立案。
- ・情報収集、業界とのコネクションづくり、ビジネス機会の創出など、会員満足度の向上に向けた活動の実施。
- ・幹事会による定期的な活動評価と活動の改善。

2) ウィズコロナに適応した会員企業への情報提供と会員相互交流の強化

- ・ウィズコロナに適応した安全、安心な会議運営（オンライン/オフライン併用、3密回避等）。
- ・ウィズコロナに配慮しつつ対面会議による相互交流の良さを取り戻す会議運営の検討と実現。
- ・日本全国から講演者を招致しセミナーを充実。

3) 部会・プロジェクト活動の情報発信による協会認知度の向上

4) 自動認識市場拡大への貢献

5) 受託事業の確実な実施と新規事業の獲得

6) 自主事業の計画的な実施

7) 普及啓発活動の質の向上

- ・セミナー、講習・試験の教材の改善。

活動方針

- 1 会員にメリットをもたらす活動 ・情報提供、関係構築
- 2 JAISA本来の目的を果たす活動 ・標準化と普及活動
- 3 積極的な情報交流 ・建前から本音部分への踏み入れ

部会構成

会員企業 56社（22年12月）
会員構成（重複有）
プリンタ/31社、リーダー/24社、サプライ/42社

バーコード部会	マーケティンググループ	部会長・グループ長	森本 圭一	ゼネラル（株）
		副部会長・副グループ長	羽切 敏明	東芝テック（株）
		副部会長・副グループ長	三國 潤	（株）フェニックス
	バーコード技術グループ	グループ長	工藤 博明	（株）マーストーケンソリューション
		副グループ長	渡辺 友弘	（株）デンソーウェーブ

マーケティンググループ

マーケティンググループの活動

- 【活動計画策定と実施】
 - ・幹事会
- 【会員への情報提供と会員相互交流の強化】
 - ・情報交流会

活動課題

成熟したと言われるバーコード市場に対し、新たな取り組みが必要。バーコードは普及が進み、生活の中に定着しているなか、バーコード以外の認識システムと融合できる新たな運用を見つけていくことも必要。

情報交流会での企業および製品紹介

*セミナーは下欄参照

- 2022年6月 （株）フェニックス
- 2022年7月 （株）マーストーケンソリューション
- 2022年9月 ゼネラル（株）
- 2023年1月 （株）サトー、（株）リコー

バーコード部会 情報交流会の講演

開催日	講演タイトル	講演者
2022年6月	2次元シンボル（海外情勢）およびデジタルリンク	GS1 Japan
7月	長方形の新型QRコード「rMORコード」の紹介	（株）デンソーウェーブ
9月	Euresys 画像処理ライブラリーソフトウェア「Open Vision」の紹介	（株）レスターコミュニケーションズ Euresys Japan（株）
2023年1月	ASKA3Dプレートで実現する「空中ディスプレイが描く未来」	（株）アスカネット

JIS X 0527（バーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様）が国際標準ISO/IEC 24458に

JIS X 0527（バーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様）は、バーコードの印字品質や読取性能などが従来メーカー独自の評価であったものを、本規格で標準化したものです。これにより、①性能評価項目のランク規定によりユーザー要求に適した製品選択が容易になる、②信頼性の高い製品開発を誘発し、市場の活性化と貿易の促進につながる、などのメリットがあります。

*2022年5月に本規格が

“ISO/IEC 24458 Information technology—Automatic identification and data capture techniques—Bar code printer and bar code reader performance testing specification”（一致規格）として出版されました。

ISO/IEC 24458制定にあたり、当協会研究員 今井博行氏が、国際標準開発に中心的役割を果たしたプロジェクトリーダとして、一般社団法人情報処理学会から「国際規格開発賞」を受賞しました。

今井氏は、2013年から当協会研究開発センター研究員として長年ISO/IECやJISにおける標準化活動を推進しており、このたびの国際規格化に対する貢献が顕著であると認められました。



RFID 部会

活動方針

1 標準化、普及活動に積極的に参画していきます

JEITA (SC31) を通じ、RFID関連の標準化に寄与します。

RFID普及の阻害要因を解決する活動に、積極的に関与します。

2 部会活動内容及び部会活動成果の情報発信を行います

最新の情報を発信して、利用者の方々に便宜を図るとともに、利用者の方々のニーズを部会内のベンダーに伝えることで、市場の活性化をはかります。

3 会員相互の親睦を深め、コミュニケーションを円滑に行い、部会活動を活性化させます

RFIDのシステムは多岐にわたる構成要素が必要とされ、個別企業による対応は難しい状況です。そこで、部会内部においてもコミュニケーションを円滑に行える活動を行っていきます。

部会構成

部会会員：116社（22年12月現在）
・チップ、インレットベンダー 6%
・タグベンダー 30%
・リーダライタベンダー 28%
・RFID関連機器ベンダー 22%
・Sier 6%
・ユーザ 2%
・その他（コンサルタント等）6%

マーケティンググループ

マーケティンググループの活動

1. 情報交流会の今年度の活動計画と実績

活動目的

新情報・新技術の会員への展開、会員相互の情報交換、関係団体との情報交換の場とする

●開催

6回／年（4月、6月、8月、10月、12月、2月）

●実施内容

- ・関係委員会、事務局からの活動報告
- ・会員企業の講演、及びユーザ団体など外部講師による特別講演を実施

2. RFID導入事例見学会

●日時 2022年7月21日（木） 参加者数12人

●見学先 小西医療器（株）
大阪ソリューションセンター様

●最新の医療材料物流センターにおけるRFID導入現場を視察。導入の効果、課題などをヒアリングし、会員の今後の参考とする。

RFID 技術グループ

RFID技術グループの活動

■RFID技術グループは、RFタグ、RFID機器（リーダライタやプリンタ等）、および関連するソフトウェア（システム）メーカーが主要メンバーとなり、RFIDの技術的側面に関しての普及阻害要因の解消活動を行っている。

■RFIDで使用される各周波数帯の特性、各用途別に必要とされる技術、国際的な互換性確保のための標準化等、多岐にわたる技術的課題解決についての活動を行っている。

RFID 部会 マーケティンググループ 情報交流会の講演

開催日	講演タイトル	講演者
2022 年 4 月	bibliotheca 社、および bibliotheca 取扱製品ソリューションのご紹介	ビブリオテカ・ジャパン（株）
	塗料業界における DX の必要性	オーウエル（株）
	欧州系自動車産業の生産工程のデジタル化における UHF 帯パッシブ RFID の活用	（株）野村総合研究所
6 月	2021 年度 RFID タグ読取評価基準の検討結果報告	RFID 部会 RFID 技術グループ
	「RFID 活用ガイドライン」の改訂と「ケーススタディ（S-1）」のご紹介	RFID 部会 アプリケーション技術グループ
	RFID の最近の導入事例について	トッパン・フォームズ（株）
8 月	Meet Qt at JAISA ～ The Future is written with Qt / UI/UX のスペシャリスト～	The Qt Company Oy
	自動認識の老舗システムギアがご提供する “高付加価値なシステム機器”	システムギア（株）
	TENTAC RFID の取り組みと ECO RFID の紹介	テンタック（株）
10 月	RFID 製品と事例のご紹介	（株）Uni Tag
	フォークリフト式電子タグ読取りシステムの開発	日本パレットレンタル（株）
	廃棄物ビジネスの DX により、新たな都市のインフラ産業に～脱炭素・資源循環・新しい街づくりへ～	白井グループ（株）

RFID 部会	マーケティンググループ	部会長・グループ長	紀伊 智顕	三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）
		副グループ長	金澤 一志	IDEC AUTO-ID SOLUTIONS（株）
		副グループ長	中野 茂	大日本印刷（株）
		副グループ長	川田 浩司	エース工業（株）
	RFID 技術グループ	副部会長・グループ長	内村 淳	SG システム（株）
		副グループ長	三上 慎一	（株）サイレンスネット
		副グループ長	山田 隆男	大日本印刷（株）
	アプリケーション技術グループ	副部会長・グループ長	大塚 裕	エクサコンサルティング
		副グループ長	竹本 直也	（株）リコー

1.委員会・幹事会の開催

(1)技術グループ委員会

●第2回技術グループ委員会を開催

・事務局報告

・2022年度RFID評価ワーキンググループの設立と体制、および参加メンバー募集。

(2)幹事会

●2022年度RFタグ読取評価基準の検討ワーキンググループの設立、RFタグ読取評価基準の検討、実施計画書など。

2.2022年度RFID評価ワーキンググループ

(1)業務請負契約の締結とワーキンググループの設立

●GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）様とJAISA間で業務請負契約を締結し、RFID読取評価基準の検討を実施する。なお、詳細を検討するためにRFID評価ワーキンググループを設立して活動する。

(2)RTI調査&見学会 参加者12名

●RTI調査とユーザ見学会を兼ねて、ウエルシア薬局（株）立川 センター様を訪問した。

(3)ワーキンググループ委員会の開催 参加者12名

●第1回RFID評価ワーキンググループ委員会を開催。評価対象のRTI検討、評価内容、評価方法などについて討議を行った。

(4)TIPP評価 活動内容 参加者16名

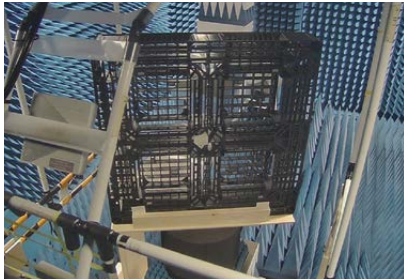
●評価用RTIの決定と準備

・評価対象のRTIを、カゴ台車・T11パレット・オリコン・オリコン台車に決定した。

●評価に使用するRFタグの選定 ・各種RTI評価に使用するRFタグをワーキンググループメンバーに公募。

・（株）宮川製作所様でRFタグの特性評価を実施し、TIPP評価に使用するRFタグを選定。

●各種RTIのTIPP標準適合可否評価実験 参加者22名(2日間)
・宮川製作所様でRFタグを装着したRTIのTIPP標準適合可否を評価するための実験を行った。



パレットの
TIPP評価

アプリケーション技術グループ

アプリケーション技術グループの活動

■国際標準提案、制定、および改訂のための審議（ISO/TC 122/WG 12関連）

■国内標準制定・改訂のための審議および制定した標準規格の普及啓発活動（JIS、他関連標準）

■RFIDの最適活用を促す「RFID活用ガイドライン」や「ケーススタディ」の作成・改訂

1.グループ会議の開催

(1)アプリケーション技術グループ会議の定期開催(年6回)

(2)個別ワーキンググループの開催

2.グループ価値の向上

(1)RFID活用ガイドラインの改訂

●第2版を22年4月に公開

700件を超えるダウンロード会議（22年12月現在）。

●第3版を23年4月に公開予定

RFタグの廃棄・アクセスパスワードの運用・システム構築上のポイント、など加筆予定。

(2)RFID活用ガイドライン 別冊ケーススタディの制作

●ケーススタディ1「S-1 製造仕掛品の所在管理」を22年8月に公開。

●ケーススタディ2「S-2 資産管理」の制作

サブワーキンググループで項目や目次ほか、詳細を検討する。

(3)普及・啓発活動

●自動認識総合展、国際物流総合展など、展示会や催事でセミナーを実施。

(4)ISO/TC 122/WG 12関連会議、規格審議と関連JIS改訂

●ISO/TC 122国際会議に参加

●ISO 28219、ISO 15394、

ISO/TR 22251関連の審議活動。

(5)FAID(Future Auto-ID)関連WG活動

●DSAと連携して内容の検討を継続

(6)ISO/TC 31 タイヤ規格標準化に関するテクニカルサポート

●JATMA ISO 規格部会 RFIDワーキンググループへの技術支援を継続。

バイオメトリクス部会

活動目的	バイオメトリクス部会	マーケティンググループ	部会長・グループ長	杉澤 正俊	日本電気（株）
			副グループ長	金子 成徳	（株）日立製作所
			副グループ長	安孫子 幸弘	富士通（株）
		精度評価技術グループ	グループ長	日間賀 充寿	（株）日立製作所

活動方針	部会活動を会員への価値提供の源泉とらえ、会員の事業に役立つ価値の提供に取り組む。 国内外の関連組織と連携し、産業界に共通し、共同で解決すべき技術、社会制度、市場環境、サービス提供側あるいは活用する利用者側などに存在する課題解決に取り組む。 国内および海外の普及には国際標準は必須と捉え、国際標準化に取り組む。	部会構成 マーケティンググループ 20社 精度評価技術グループ 6社・大学 部会活動 総会 1回、幹事会 4回、 SBRA2022後援 1回

マーケティンググループ

マーケティンググループの活動

1. 生体認証セミナーの開催
（概要次頁）

2. バイオメトリクスの利活用パターン調査*

- 調査目的
利用シーンごとに必要となる生体認証の機能、性能と導入時の注意事項をまとめ、概要を公開し生体認証の普及・定着を目指す。2020年4月～2022年9月のニュース(3,110件)に含まれる生体認証利活用パターンを抽出し、社会実装課題(標準化項目)を調査する。

- 調査内容
(1) 利用シーン：
金融、流通、公共、医療、職場、教育、交通、まちなか、ほか
(2) 生体認証視点：
検証(Verification)1対1照合
識別(Identification)1対N照合

	区分	講演内容	パターン	主な利活用シーン
1	検索	多くのm人から1名の登録者を検索する（個人識別）	m：1	捜査 見守り
2	照合	登録者（1名）であるかを照合する（本人確認）	1：1	犯人特定 携帯電話、ATM
3	識別	提示された1名をn人の登録者の中から識別する（本人認証）	1：n	不正利用者 入退管理（クレームなし）
4	分類	多くのm人をk個の属性に分類する（グルーピング）	n：m	犯人追跡、マーケティング（個人識別なし）

バイオメトリクス部会	マーケティンググループ	
	市場調査・普及啓発	意見交換・人材育成
	●市場調査・一般参加セミナー ●Web ニュース配信、他	●意見交換・情報交流会 ●基礎知識セミナー、他
	精度評価技術グループ	
	研究・開発	国際標準化・技術研究
	●極値統計応用精度評価方法 ●画像合成応用性能評価方法	●国際標準の日本提案支援 ●フォーラム公演・論文投稿

3. 意見交換会

テーマ:コロナ禍を超えて、広げていきたい生体認証の利活用と普及の課題

- 事業・利用シーンに分けた討議
●金融：スマホでの決済、eKYCによる銀行業務の変化
●流通：カートレジ、セルフレジ、ワークスルーなどの売上計上業務の変化
●公共・医療・健康：マイナンバーカード一体化、病院受付、リモート医療、薬自動販売機、コンビニジムなどサービス形態の変化
●職場・教育：オフィス、工場現場での業務変化、リモート授業・試験の拡大、登下校時の安全管理、学生生活への普及
●交通・まちなか：空港と観光の連携、ホテルチェックイン、スマートロッカー、マンション、建売玄関・監視
●普及課題の検討
●生体情報の登録・更新：いろいろなどころに登録する不安、更新する手間。
●生体認証の定義・精度：生体認識と生体認証の違い、稀に起こる現象への対応

精度評価技術グループ

精度評価技術グループの活動

1. 画像合成応用性能評価方法調査*

- 調査目的
コロナ禍で利活用シーンが増大するにつれ、環境や人種の違い、外見(マスク等)の変化、利用シーンの多様化を考慮した精度/性能評価の重要性がますます高くなっている。そこで、人工生成画像が生体認証システムの精度/性能評価にどのような形で活用できるか、活用する画像合成方法や前提条件、制限事項は何かを明らかにして、国際標準化の必要性も検討する。活動期間2022年5月～2023年2月
- 調査対象
●利用目的:なりすまし(PAD)、経年変化、光源評価、環境変化の評価
- 調査内容
●評価に適した人工画像の生成手法およびツールの調査。
●人工画像活用の際の前提条件や制限事項の洗い出し、従来の評価方法との比較検討。
●国際標準化提案を見据えた問題点の整理、検討。

2. 生体認証の性能評価に関わる国際標準化の支援

- 国際標準化の状況を把握し、公平な性能評価ができるよう画像合成手法を用いた生体認証の性能評価方法を国際標準化を支援していく必要がある。

- ISO/IEC CD 5152
- ISO/IEC WD 19795-10
- ISO/IEC WD 9868
- ISO/IEC 30107-1：2016

3. BioX 研究会への参加

「画像合成手法を用いた生体認証性能評価方法に関する標準化調査」の活動として、沖縄県／石垣市で開催されたBioX研10月研究会で、＜社会を見守るセンシング技術＞や＜自己主権型アイデンティティの未解決問題＞など、今後の生体認証関連の利活用シーンに関わる研究を調査し、今後の生体認証に必要な国際標準を検討した。

4. SBRA2022への参加

生体認証の業界団体として生体認証の研究開発者が集う国内最大級「バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム(SBRA2022)」に参加。
最新の生体認証技術を調査する。特に、自己主権型IDの未解決問題や非集中化を目的としたID技術術関連動向、個人情報保護などを調査、日本の業界として開発すべき標準を検討、R5年度活動として提案した。

*令和4年度政府戦略分野に係る国際標準開発活動として、経済産業省からの委託事業を株式会社三菱総合研究所からの再委託により実施した。

バイオメトリクス部会 マーケティンググループの講演

2022年度 生体認証関連国際標準化セミナー

第1部 国際標準化の動向		10月27日
生体認証（SC37）の国際標準化総括	坂本 静生 氏	日本電気（株）
ICカード（SC17）の生体認証関連トピック	中村 健一 氏	パナソニックコネクト（株）
情報セキュリティ（SC27）の生体認証関連トピック	山田 朝彦 氏	国立研究開発法人産業技術総合研究所
金融サービス（TC68）の生体認証関連トピック	橋本 崇 氏	日本銀行決済機構局
所感	新崎 卓 氏	（株）Cedar

第2部 生体認証（SC37）国際標準の変化		10月31日
用語（WG1）／性能評価（WG5）	山田 茂史 氏	富士通（株）
テクニカルインターフェース（WG2）	菊地 健史 氏	（株）日立ソリューションズ
データフォーマット（WG3）	浜 壮一 氏	富士通（株）
社会課題（WG4）社会問題／プロファイル（WG6）	山田 朝彦 氏	国立研究開発法人産業技術総合研究所
所感	日間賀 充寿 氏	（株）日立製作所

2022年度 生体認証ビジネス実践セミナー

新技術の活用による新たな経済社会の構築に向けて		11月30日
招待講演「次世代の情報処理基盤の構築に向けて」取り組む政策の現状	木村 鴻志 氏	経済産業省 商務情報政策局 総括係長
新たな経済社会に向けた利活用パターンの変化 2020～2022	杉澤 正俊 氏	バイオメトリクス部会 部会長
究極の生体認証～顔、虹彩、そしてマルチモーダルハーキュースケースの紹介	山田 道孝 氏	日本電気（株）プロフェッショナル
オフィスの中を生体認証で「つながる世界」に ー社内実践の取組ー	相原 蔵人 氏	富士通（株）シニアディレクター
社会を見守るセンシング技術	高田 直幸 氏	セコム（株）IS研究所 グループリーダー

システム部会

システム部会	マーケティンググループ	部会長	大澤 秀次	東芝テック(株)	部会構成 44社(2022年12月現在)
		副部会長	柳下 典男	トーヨーカネツ(株)	

活動目的

自動認識技術を活用したシステム事例や新しい自動認識技術の理解を深め、そのシステムへの応用を図り、自動認識技術の発展に役立てることを目的として活動する。

国内事例に限らず海外も含めた自動認識の先進的な活用事例をテーマとして年間を通じたセミナーを企画・立案し、情報提供を行う。

- 先進的システムを導入するユーザの見学会を企画・開催し、自動認識ユーザと意見交換を行うことで、システムとオペレーションの理解を深める。
- 最新の自動認識活用動向とユーザニーズの把握に努める。

2022年度活動テーマ

最近の物流・流通の現場では、様々な自動認識システムにより収集されているSCMデータや物流現場のデータをCPS（サイバーフィジカルシステム）により解析し、経験や勘では無く、定量的な分析を行い、現実世界へフィードバックする事例もみられ、またSDGs やニューノーマル社会で決用される自動認識技術も再認識されている。システム部会では、このようなシステムサイドの視点に立ち、関連するセミナーや見学会を実施する。

マーケティンググループ

マーケティンググループの活動

1. 幹事会

部会運営全般や情報交流会・ユーザ見学会、事例集セミナー等の部会が主催するイベントの開催方法やその内容について、部会参加者にメリットを提供できるよう検討し、活動に反映する。

2. 情報交流会(3回開催)

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、リアル会議参加の推奨による会員同士の交流やセミナー講師との交流を促進する。

システム部会マーケティンググループ 情報交流会の講演

開催日	講演タイトル	講演者
2022年 5月	Avery Dennison Smartrac の会社紹介及び最新 RFID インレイ・タグのご紹介	エイブリー・デニソン・ジャパン(株)
	RFIDを活用したネットスーパーにおける食品ロス削減実証実験	(株)日本総合研究所
7月	Meet Qt at JAISA ～there is a screen, there is Qt スクリーンあるところに、Qtあり～	The Qt Company Oy
	プロセスマイニングの理解	(一社)プロセスマイニング協会
9月	SeeVision のご紹介	(株)シービジョン
	倉庫でのマニュアル作業を効率化！倉庫管理ソリューション HAKO-FLO（ハコフロ）	東京エレクトロン デバイス アメリカ

注目・話題の技術や事例、お困り事など、参加者の持ち回りでテーマを決定し、ディスカッションするような機会を設けるための準備を行った。

3. ユーザ見学会

小西医療器(株) 大阪ソリューションセンター様

最新物流技術による生産性・正確性を追求した次世代型の医療材料物流センターにおける自動認識技術の活用事例の見学



オルビス(株) 東日本流通センター様

小型AGVの活用により新たな自動化オペレーションを確立し出荷能力の向上や労働負荷の低減を実現した化粧品等通販の物流センターにおける最新の物流システム及び自動認識技術の活用事例の見学



4. 自動認識システム導入事例集セミナーの開催
事例集セミナー開催の目的

- システム事例を発信し市場の拡大に繋げる。
- システム導入事例掲載によるビジネスチャンスの提供
- 自動認識システムの認知度・注目度の向上

5. 自動認識システム導入事例集の
新事例の継続的な追加を目指す

- 定期的な事例募集のアナウンス
- 自動認識システム大賞受賞事例の掲載

医療自動認識プロジェクト

医療自動認識プロジェクト	プロジェクト長	白石 裕雄	サトーホールディングス(株)	部会構成 33社(2022年12月現在)
	副プロジェクト長	浅野 壮介	東芝テック(株)	
	副プロジェクト長	田井中 秀人	アイニックス(株)	

活動目的

- ❶医療用医薬品や医療機器等へのバーコード利活用促進。
- ❷福祉・介護・在宅医療などの地域包括ケアシステムにおける自動認識技術の利活用促進に向けた活動。

プロジェクトの活動

- 1. プロジェクト会議
- 2. ユーザ見学会
小西医療器(株) 大阪ソリューションセンター様

RFIDをフル活用した物流センターが稼働開始

すべての医療材料に小分け単位でRFIDタグを貼付し常時在庫を管理することで、より安全かつ正確で迅速な医療材料供給を可能にしています。納品先の施設内でも管理を容易にしています。



小西医療器(株)大阪ソリューションセンター様 見学会

3. 医療関連情報の共有

- (一社)米国医療機器・IVD工業会 (AMDD) RFID ガイドライン
- GS1 標準状況: EPC Tag Data Standard 2.0 (Packed Object、EPC+)
- 医機連 UDI部会運用分科会報告(DPMなど)
- (一社)医療材料統合流通研究会 定例会報告

4. 医療トレーサビリティ活動サポート

- 厚労科研「活用手順書」の書籍化 *RFID部会と協働

5. 医療用医薬品新バーコード対応リスト改訂

- 掲載機種数 第9版: 8社69機種
(2015年第1版: 7社24機種掲載から継続)

活動概要／医療業界の動向

1. 改正薬機法関連

改正薬機法の施行により、対象製品へのGS1バーコードの確実な表示が求められ、医療機器メーカーにおいては表示

品質が重要となります。さらにGS1バーコードの活用を促進することで市場は活性化され、自動認識関連企業にはビジネスチャンスが生まれます。さらには、RFIDの活用に向けた動きも出始めています。

2. AMDD(米国医療機器・IVD工業会)の
医療機器物流情報プラットフォーム

内閣府が主導するSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)事業では第1期は日本通運(株)、第2期は日本電気(株)が中心となり、RFIDデータプラットフォームの構築が始まりました。医療機器メーカーや卸企業のRFID導入をサポートする取り組みが重要です。そこで、(一社)医療材料統合流通研究会は昨年の導入手順書を書籍化の予定で、JAISAも担当します。今後このようなRFID導入に向けた資料が必要となり、当プロジェクトではAMDD関連企業に向け、JAISA RFID部会と協力して昨年度の手順書のバージョンアップなどに取り組む計画があります。

3. 医療卸でのRFID利活用

NOVUMN = 特殊医薬品流通管理プラットフォーム
RFID+クラウド型インフラ基盤+IoT技術

医薬品卸売企業22社、PHC、富士通 Japan は、RFIDやクラウド型インフラ基盤、IoT技術を活用した個別化医療支援プラットフォーム「NOVUMN」(ノヴァム)を活用し、特殊医薬品のサプライチェーン全体の最適化を図るための「個別化医療・医薬品トレーサビリティ協議会」を設立しました。

「NOVUMN」は温度変化に敏感な特殊薬品について、①流通の全段階の厳格な温度管理、②製品ひとつひとつのトレーサビリティの把握、③医薬品卸や医療機関におけるより適切な在庫管理機能 ー などの実現が期待されています。

4. 第42回医療情報学連合大会

(第23回日本医療情報学会学術大会)に参画

2022年11月、札幌コンベンションセンターで行われた共同企画セッション「医療機関における標準バーコード・RFID導入のための具体的方策。一何を考え、どこから取り組み、何を指すのか」において、プレゼンテーションを行いました。

- (一社)日本自動認識システム協会について

- RFID導入が必要なワケ

- ・自動認識技術の歴史
- ・RFIDの誤解

- 医療業界のRFID取り組み状況

- RFID導入手順書の概要

画像認識プロジェクト	ガイドライン検討ワーキンググループ	プロジェクト長 ワーキンググループリーダー 実践編チームリーダー	片岡 好広	東芝テック (株)
		導入編チームリーダー	幸 拓郎	NEC プラットフォームズ (株)
		活用編チームリーダー	阿部 一郎	みずほリサーチ&テクノロジー (株)
	交流推進ワーキンググループ	副プロジェクト長 ワーキンググループリーダー	齋藤 有二	サトーホールディングス(株)
	技術調査・適用ワーキンググループ	ワーキンググループリーダー	柿沼 明宏	(株) リコー

部会構成 41社
(2022年
12月現在)

活動目的

これまでのバーコード(1次元/2次元)、RFIDなどの自動認識技術では実現できなかった処理や管理、制御に「画像認識技術」を加えることで、自動認識をより確実なものにする。また、会員企業の間画像認識に対する知識・知見を浸透させる。

活動方針

ニューノーマル時代におけるビジネス課題、社会的課題の発掘とDXの支援に、画像認識技術を活用して取り組む。

プロジェクト活動全体

1. 情報交流会の開催 年6回
2. 見学会の実施

- 日 時: 2022年10月6日 参加者23名
- 訪問先: KYOTO ROBOTICS (株) 様
- 3D ロボットビジョン: 画像認識でピッキングロボットが部品箱から1つずつ部品を的確に取り出す
- 物流向けデパレタイズ: パレットに山積みされた段ボールを上から順にロボットが取出し、搬送レールへ運搬

交流推進ワーキンググループ

交流推進ワーキンググループの活動

1. 画像認識サービストrend (情報収集)
展示会、セミナー、文献、ニュースリリース、Webなどのニュースソースをもとに情報を随時更新する。
●AI提供ベンダー調査 ●導入事例調査
2. 見学会の企画
3. セミナーの企画

技術調査・適用ワーキンググループ

技術調査・適用ワーキンググループの活動

1. ガイドライン導入編の精査

2. 技術および適用事例の調査・共有

- 技術トレンド調査
 - ・HLAC(高次局所自己相関)による異常の視覚化
 - ・GPU不要 (計算が軽い)
 - ・事前に異物を見える化する工夫 (装置)
 - ・画像からおいしさ情報へ転換するノウハウ
 - ・食品の地道な経時変化データ収集による鮮度測定アルゴリズム
 - ・特殊形状に特化した撮像装置 (ハードに特徴)
 - ・様々な形状・位置・フォント等に対する認識 (適応力)
 - ・ノーコード、自由なアルゴリズム組合せ、多様なAI技術
 - ・設計から運用までワンストップ対応
 - ・運用を続けるほど賢くなるAI
- 適用事例調査
 - ・自動車部品生産ラインでの検品、生産設備の異常検知
 - ・社会インフラ検査、異常検知
 - ・ワインの異物混入検査
 - ・飲食物品(茶葉、生鮮食品、総菜原料)の品質評価
 - ・特殊形状製品の外観検査、段ボール箱のロット情報読取
 - ・ドローンやロボットによる検査・点検・メンテナンス

ガイドライン検討ワーキンググループ

ガイドライン検討WGの活動

1. 導入編チーム
AI画像認識トレンド(最新技術動向)、サービス提供ベンダー等の更新、用語集の追加
2. 活用編チーム
画像認識システム導入を支援するガイドラインに取り組む
3. 実践編チーム
AIサービス実現環境構築を試作し、課題をデモアプリで体感してみる

画像認識プロジェクト 情報交流会の講演

開催日	講演タイトル	講演者
2022年4月	AIソリューションのご紹介	NSW (株) 旧: 日本システムウェア (株)
6月	画像認識技術及び事例紹介	インテル (株)
	画像 AI テクノロジー及び事例紹介	ギリア (株)
8月	リテール店舗の課題解決、価値向上を実現するAIカメラソリューション	AWL (株)
	精度の高い肌診断を行うスマホアプリの紹介	(株) Novera
10月	AlliomVision を使った外観検査	(株) エイアイキューブ
	最新 HALCON /MERLIC/ALITHEON の紹介と事例紹介	(株) リンクス

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第20回 自動認識総合展 2023.2.21^{TUE}-22^{WED} 10:00-17:00 マイドームおおさか 1F展示場 大阪



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ **AUTO-ID**

— SDGsとDXに貢献 —



主催: 一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業: **BT Spice** 自動認識セミナー

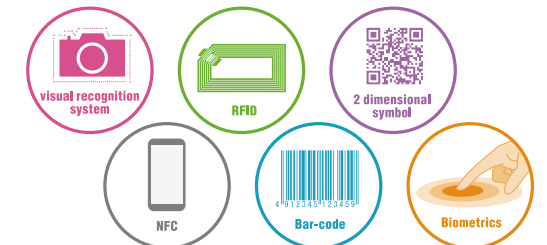
www.autoid-expo.com



公式サイトはこちらから

展示会事務局 (株) シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL: 03-5297-8855 FAX: 03-5294-0909 expo-osaka@autoid-expo.com



JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

会報 JAISA 第73号 発行所: 一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人: 専務理事 古村浩志

事務局: 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL: 03-5825-6651 FAX: 03-5825-6653 <https://www.jaisa.or.jp/>